ソフトウェアデベロップメント		研修コース群	I T 基本 1	I T 基本 2		システム 開発基礎		リーダシップ基礎	コミュニケー ション基礎	ネゴシエー ション基礎	開発技術の基礎	를 다 됐다.	プロジェクトマネジメン	ス基礎 ソフトウエア開発プロセ			要素技術基礎		とこと 一種 田 一郎 石 子画	- ネス栽各・製品企	製品アー キテクチャ		品質保証と管理		開発技術上級	メントのリー ダシップ	エアデュニ	トウェラ	ソフトウェアデベロップ	最新技術動向	ピジ	コミュニティ活動	要素技術		基礎 インダストリ業務知識の	ション動向 業務パッケージ基礎		要素技術上級	
職種共通スキル項目	専門分野園有スキル項目	研修コース名	T 入門 パーソナルスキル人門	- Tエンジニアの基礎	グラ	リタベー	ッキュ	ーダシッ	コミュニケー	ネゴシエー ション基礎	説国際標準/業界標準の概	技術プラットフォームの要素	プロジェクトマネジメンス基礎	ソフトウェア開発プロセ法論	要素技術基礎	グロー バリゼーション	クセシビ	セキュリティの要素技術	画 ソフトウェアビジネス計	ジネス	野品アー キテクチャの	元	問題分析演習	/フ 評ォ: 価	インフォメー ションデベ	メント	ソフトウェアデベ	ソフトウ	メントのネゴシエー ショソフトウェアデベロップ	最新技術動向	ビジネ	コミュニティ活動	クショップ	て ルス ソ	基イ礎タ	ジョン動向 業務パッケージ基礎	本ソフトの	٧	業務パッケー ジ製品別セキュリティの設計上級
コストマネジメント		コストコントロール ・コスト変更管理の実施 ・連歩状況評価基準の把握、実践 ・ビザMCErrad value management)の活用と実践 ・コストコントロールツールの活用と実践																																					
コストマネジメント		コスト規算 ・ボトムアップコスト見積の実施 ・ボトムアップコスト見積の実施 ・見積ツールの活用と実践 ・コスト見様方法論の活用と実践																																					
コストマネジメント		資源計画 ・資源計画の検討と策定 ・代替案の定義																																					
コストマネジメント		* 予算設定 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・																																			+		
コミュニケーションコミュニケーション		ニミュケーション手法の活用と実践 効果的な話し方、間参方の実践 コミュニケーション(情報処理) ・状況実対応能力の育成、実践 ・状況理解力の活用と実践																																			\forall		
		・ミーティング運営技術の活用と実践 コミュニケーション(情報伝達) ・ブレゼンテーション技術の活用と実践 ・パータースをおいまで表現の作成																																			+		
コミュニケーションコミュニケーションマネジメント		- 文書表現および表現力の活用と実践 - メディア選択 - 説得技法の活用と実践																																			\perp		
コミュニケーションマネジメント		- 1-1 - 1 - 2 - 3 - 1 要件の把握 - 1 - 1 - 1 - 2 - 1 要件の活用と実践 プロジェクト実体 - プロジェクト実績報告 - プロジェクト報告書の作成																																			\forall		
コミュニケーションマネジメント		・プロジェクトプレゼンテーションの実施 実績報告 ・追歩検証 ・予実分析 ・傾向分析																																			\forall		
コミュニケーションマネジメント		「現Iログイガ 「Earned Value分析 情報配布 - コミュニケーションスキルの活用と実践 ・情報配布方法論の活用と実践																																			+		
スコープマネジメント		スコープ計画 ・スコープ記述書の策定 ・スコープマネジメント計画書の策定 スコープ検証																																					
スコープマネジメント		スコープ定義 ・WBSの作成 ・スコープ記述書更新版の策定 スコープ変更管理																																			\blacksquare		
スコープマネジメント		- スコープ変更 ・ペースライン文書の改訂 プロジェケト開始 ・プロジェケトでネジャの選定と任命 ・制約条件、前提条件の把握																																			+		
ソフトウェアエンジニアリング		プロジェアドペンの選起とには明 ・制約条件・制度条件の心理 インフォメーションデベロップメント ・製品情報の設計、開発 オブジェアト経内開発																																					
ソフトウェアエンジニアリング		・オブジェウト指向の基本概念 ・UML ・オブジェクト指向開発ブロセス ・分析、設計、実装 ・主なオブジェクト指向技術																																					
ソフトウェアエンジニアリング		セキュリティシステムの実装、検査 ・セキュリティ製品、ツールの選定、導入 ・セキュリティメンテムの開発 ・セキュリティ技術の実装																																					
ソフトウェアエンジニアリング		セキュリティとブライバシ ・セキュリティ対策(機能保護、改ざん防止対応、不正侵人、コ ンピュータウィルス、インテグリティ対策、可用性対策、安全対 策、ソーシャルエンジニアリング) ・プライバン保護																																					
ソフトウェアエンジニアリング		・リスク版皇 ・リスク版皇 ・ソストウェア設計(ソフトウェアデベロップメント) ・通南ガイクンスの作成 ・通南ガイクンスの作成 ・通南ガイクンスの作成 ・連邦中ソフト・アン部のの選定 ・技術開催すべきテクノロジーの識別 デスト技法																																					
ソフトウェアエンジニアリング		- テストケース設計 - 仕様決定 - テスト環境設定 - 管理 - テストデータ準備 - テストデータ準備 - テストツールの活用																																					
ソフトウェアエンジニアリング ソフトウェアエンジニアリング		デバッグ技法 デバッグツールの活用と実践 プログラミング技術 ・各権プログラミング言語技術の活用と実践 プログラミング																																					
ソフトウェアエンジニアリング		・コーディング ・テスト工程、手順、手法の理解と実践 プログラム設計 ・開発手法とブラットフォームの選定																																			+		
ソフトウェアエンジニアリング		- プログラム設計基準 - プログラム設計書の作成 - テスト計画と仕様の作成 プログラム設計 - 開発手法とブラットフォームの選定																																			\vdash		
ソフトウェアエンジニアリング		・プログラム設計基準 ・プログラム設計書の作成 ・テスト計画と仕級の作成 プロダントセキュリティ ・情報資産の経営情報の取り扱いルール ・開発環境および製品のウィルス対策など																																			\vdash		_
ソフトウェアエンジニアリング ソフトウェアエンジニアリング		- 開発環境および製伍のウィルス対策など ・ セキュリティ計画書の作成 開発支援ツール - 開発環境 ・ 各種アプリケーション開発ツール																																			+		
ソフトウェアエンジニアリング		- 構成管理ツール - ボスカ、シミュレータ等 関発手法 - 側影手法の選定 - 側影手法の選定 - 側影手法の選定 - パオーターフォール型、RAD (Rapid Application Development) 型。スパイラル型																																					
ソフトウェアエンジニアリング		Development)型、スパイラル型 - 業務(ソケージ固有の開発手法 外部設計 - システム機能設計 - テーチデルの設計 - ・ チーチャー・・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・																																					
ソフトウェアエンジニアリング		監査・システム監査の基礎・システム監査の計画・システム監査の実施と報告の把握、活用																																					
ソフトウェアエンジニアリング		接待検証手法の活用と実践 ・プロトタイピング ・シミュレーション ・モデリング 技術問題解決手法																																					
ソフトウェアエンジニアリング ソフトウェアエンジニアリング		・技術問題解決手法の活用と実践 再利用手法 ・ソフトウェア部局の利用 ・先行プロジェクトの成果物利用 ・再利用手法の活用と実践																																			$\frac{1}{1}$		-
ソフトウェアエンジニアリング		・特利用子法の活用と乗載 設計手法 ・オブジェクト指向設計 ・構造化設計 ・データ中心型設計																																			\forall		
ソフトウェアエンジニアリング		内部設計 ・機能設計 ・人グターフェース設計 ・内部データ設計 ・ウブコンボーネントの識別、役割定義 ・サブコンボーネントの間係定義																																					
ソフトウェアエンジニアリング		・内部収録計画の作成 標準化 ・開発と取引のプロセスの標準化 ・情報システム基盤の標準化 ・データの標準化 ・標準化解型の呼振、活用																																					
タイムマネジメント		スケジュール研発と簡単 数学的分析(Critical Plat Method、PERT等) 併発時間の辺鏡 ジミュレーションの実施 ・プロジェウィネがメントツールの活用 ・プロジェウィネがメントが一向が成 ・スケジュールなインメントが高層の作成 ・スケジュール変更複理																																					
タイムマネジメント		作業師序設定 - PDM(Precedence diagramming method) - ADM(Arrow diagramming method) - Conditional diagramming method - プロジェクトネットワーク図の作成 - 作業項目リストの作成																																					
タイムマネジメント		作業所要時間見積 ・所要時間見積 ・作業項目リストの作成																			1	t				t		1					İ						
タイムマネジメント		作業定義 ・作業の級分化、詳細化 ・作業項目リストの作成 ・WBS更新版の作成 ・WBS更対策の作成																																			\prod		
テクノロジ		・HTML ・サーブレット ・EJB、JZEE ・JSP、JSF ・XML、XMLを基盤とした各種マークアップランゲージ ・Webサービス(SOA, SOAP, WSDL, UDDI, WS-Security 等)																																					
テクノロジ テクノロジ		アプリケーションセキュリティ ・アプリケーションセキュリティ機能の設計、開発、導入 インターネットアプリケーション基盤技術 ・アプリケーションサーバーシステムの基本構成 ・アプリケーションサーバーシステムの基本要求(スループッ																			+	+				+		+				+	+		H		+		+
テクノロジ		ト 耐収整性、無停止運転、拡張性など) インターネット技術 ・インターネットの歴史 ・インターネットの歴史 ・メールに関する技術 ・メールに関する技術 ・場合化技術 オペレーティングシステムの基礎 ・メイフレー人のOS																																					
テクノロジ		- オフコンOS - UNIX - WINDOWS - Linux - 組み込み機器OS																																					
テクノロジ		コンピュータシステム ・ハードウェア - 添本ソフトウェア ・システムの構成と方式 ・システムの用																																					
テクノロジ テクノロジ		コンピュータシステムアーキテクチャおよび基盤技術の理解と 活用 コンピュータ科学基礎 ・情報の基礎理論 ・データ構造とアルゴリズム					+	+								+					+	+			\parallel	+		+	\exists			+	+		H	+	+		+
テクノロジ		コンポーネント間の通信方式 ·IIOP ·CORBA ·ソケットなど						I						l							I	I											I						
テクノロジ		システムの開発環境 ・システム開発手法 ・言語、ツール、ソフトウェアバッケージの把握と活用						L																											П		Ш		

1/3

c経済産業省

ソフトウェアデベロップメント		研修コース群	I T 基本 1	「 丁基本 2		システム開発基礎		リー ダシップ基礎 コミュニケーション基礎	ネゴシエー ション基礎	開発技術の基礎	ェクトマネジメン	ス基礎ソフトウエア開発プロセ		要素技術基礎		ビジネス戦略・製品企画	製品アー キテクチャ	品質保証と管理			開発技術上級	メントのリー ダシップソフトウェアデベロップ	ション メントの コミュニケー リフトウェアデベロップ	ソフトウェアデベロップ	最新技術動向	ビジネ	コミュニティ活動	要素技術			ション助句ション助句	7	要素技術上級	
職種共通スキル項目	専門分野園有スキル項目	研修コース名	I バースソナルスキル人門	「フロクラミンクの基礎	7 î	1 1	ij	リーダシップ基礎コミュニケーション基礎	ネゴシエー ション基礎	国際標準/業界標準の概 ガラットフォームの要素	ト基礎・アーマネジメントを発	ソフトウェア製品開発方法論 要素技術基礎		アクセシビリティ	セキュリティの要素技術 ネットワークの要素技術	ツフトウェアビジネス計ビジネスプロセス	ケーススタディ 製品アーキテクチャの	計画	分評析価	バフォーマンス計画/管	カオはリンコ		ション メントのコミュニケー ソフトウェアデベロップ	ソフトウェアデベロップ	最新技術動向	ビジネ	ユニティ活動	基本ソフトの要素技術ワークショップ	インソフ		助スパ	級 経 基本ソフトの要素技術ト	上級ミドルソフトの要素技術	
テクノロジ		システムブラットフォーム技術 ・オペレーティングシステム技術の活用と実践(メインフレーム、分散機(オフコン)、Unix、Windows、Linuxなど) データペース、ミドルウェア・分散コンピューティング設計						NE.		34 3FC	, .				R) R)			[pag				,	Í	1,			_		N3				83	
デザイン テクノロジ		データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計・最適データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング選定、機能と制約事項の理解、設計 データベース連用設計 パフォーマンス設計、障害対策																									+							+
テクノロジ		データベース技術 ・データベースのモデル ・データベース言語 ・データベースの制御																																
テクノロジ		データベース設計 ・データベース論理設計 ・データベース物理設計																																
テクノロジ テクノロジ		データモデリング技法の活用と実践 ・データモデリング技法の活用と実践 ・データモデリングツールの選択と活用 トランザクション処理とデータベースの同期点の関係																									_							_
		ネットワーク技術の理解と活用 ・プロトコルと伝送制御 ・符号化と伝送 ・ネットワーク関連法規 ・ネットワークセキュリティ ・温在練響																																
テクノロジ		・ネットワークセキュリティ ・通信機器 ・インターネット ・ネットワークソフト ・AT M (Asynchronous Transfer Mode) ・フレームリレーやLAN、WANなど回線に関する技術 ・TCP/IP																																
テクノロジ		ブラットフォーム技術 ・ハードウェアアーキテクチャ、ストレジ管理、通信制御、トラン ザクション処理、分散処理、並列処理の把握と活用 プログラミング言語、マークアップランゲージ																																
テクノロジ		プログラミング ana. マーアテップリングージ ・C、C、+、COBOL、Java、HTML、XML などの各種言語 ・表記法の特徴 ・グラフィカルな開発環境の使用法																																
テクノロジ		ミドルウェア技術 ・Web_CG!の仕組み_JSP_EJBの把握、活用 モデリング技法の理解と活用 ・デ タモデリング技法の活用と実践																									_							#
テクノロジ		・ファインリンは大公の市に登録 ・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン・ファイン																									_							_
テクノロジ		・ア タペ 人利用安米の解析機能 ・デ タペ ス利用の記録機能 ・デ タペ スパックアップリカバリ 機能 ・インテグリティ権保機能 風軽な採取時点																																
テクノロジ		・最新ハードウェア技術動向の把握 ・最新ミトルウェア技術動向の把握 ・最新ブラットフォーム技術動向の把握 ・最新ボットワーク技術動向の把握 ・最新データベース技術動向の把握 ・最新セキュリティ技術動向の把握																																
テクノロジ デザイン		・最新システム管理技術動のの把握 型列程度プログラミング技法 開発環境設計 開発環境を中立定義 ・プラットフォーム選定 世代定義 ・ユーザ要求 ・プロジェント級囲																									#							=
デザイン		- 目的の明確化 - 条件の優先順位付けと関連部門の調整 - 要件加速の実施 - 実件の定義 - 文書化 - 資源要求の調査 - システム化計画の作成																																
ネゴシエーション		ネゴジエーション・ 交渉 プロセスの把握と実践 ・ 効果的な交渉技法の活用と実践 ・ 信頼間係の理 ・ 目都の設定 ・ 大海剣込 ・ 論雑別の単の実践 ・ 開観発学士の活用と実践																																
リーダシップ		リーダンップ・ リーダンップの基本や原則の把握と実践 ・チームワークとコミュアーションの実践 ・プロジェント目標の設定 ・プロジェントの推議 ・プロジェントの推議 ・プロジェントを ・プロジェントを ・プロジェントを ・プロジェントデームメンバの影響 ・プロジェントデームメンバの影響付けと遠成感の提供																																
リスクマネジメント		リスクマネジメント計画策定 リスク監視とリスクコントロール ・プロジェクトリスク対応監査 ・定期的なプロジェクトリスク検証 ・Earned Value分析																																
リスクマネジメント		リスク国際) 現実的が 情報収載技術:プレインストーミング、インタビュー、SWOT分 所の言語と演誌 ・仮認の外 ・ダイフログ技術の活用と実践 リスク対応計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・																									_							
リスクマネジメント		リスク対応計画 ・許容 ・回避 ・移転 ・軽減 ・受容																																
リスクマネジメント		定性的リスク分析 ・リスク発生頻度と損害の大きさによる分析 ・リスク発生頻度と損害の大きさの評価マトリックスによる分析																																
リスクマネジメント		定量的リスク分析 ・情報収集技術(インタビュー)の活用と実践 ・重大性分析																																
開発方式設計		・デシジョンツリ分析 ・プシジョン・フリ分析 ・プシジョン・フリカー ・プシス・フリー・フリー・フリー・フリー・フリー・フリー・フリー・フリー・フリー・フリー																																-
開発方式設計 開発方式設計		(CMMI など) テスト実施計画書の作成 リスク管理基礎 ・リスクマネジメント計画策定 ・リスク議例 ・実性的リスク分析																									+							=
P07073 1-V0X01		・定量的リスク分析 ・リスク対応計画の策定 ・リスク監視と管理 開発支援ツール ・開発環境																									_							<u> </u>
開発方式設計		- 各種アプリケーション開発ツール - 構成管理ツール - デバッガ、シミュレータ等 - 見積もり、スケジュール手法																																_
開発方式設計		・規模の見積もり (LOC/Function Point/COCOMO など) ・スケジュール最適化 (クリティカルパス、PERT、ガントチャート など)																																
開発方式設計		適合すべき標準の選定 ・ 国際標準 ・ デファクトスタンダード																																
開発方式設計		・社内標準 品質検査(ソフトウェアデベロップメント) ・デザインレビュー ・コードレビュー ・機能デスト ・統合テスト																																
業務分析		・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・																									_							_
		・インダストリモシャルを削り、技が割りは、被与のかいを提 ・インダストリ別事業環境の把握と活用 ・インダストリ別事業環境の把握と活用 ・インダストリ固有業務内容の把握と活用 ・インダストリ固有業務内容の把握と活用 コーザとのリレーション確立																																\perp
業務分析		技術要件分析 ・現行IT環境分析 ・新規技術要件の把握																$\dagger \dagger$									\top	\dagger		П	\top			\dagger
業務分析		- ニーズの分析と優先順位付け 業務要求分析 - ユーザニーズの把握 - ニーズの分析と優先順位付け																										1						\pm
業務分析		情報化と経営 ・企業会計 ・経営工学 ・近常分割 ・経営工学 ・近洋の表別 ・近洋の表別 ・近洋の表別 ・近洋の表別 ・近洋の表別 ・近洋の表別 ・近洋の表別 ・「関連法拠の実施・選守																																
業務分析		システム価値の検証 ・IT価値の定義 ・IT価値管理のフレームワーク機築			\prod	\blacksquare				1					1			\prod									#	1			1	1		#
組織マネジメント		テーム体制化 テーム構成作業の実施 一般的な管理業務の実施 通材配置の実践 チーム育成								\perp						Ш																		
組織マネジメント		プロジェクト組織計画・人材業務の実践																									1	T			1			\perp
組織マネジメント		・ 短期間の実施 更異調算 更異調算 - 1項問題形の実施 - 1項問題形の実施 - 1項記 - 1回記 - 1回 - 1回記 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1 - 1																									+	+						+
調達マネジメント		英的条件の確認と合意 - 契約条件の確認と合意 - 契約の締結 - 例外事項の処理 - 外注とOEM契約業務の理解																																
調達マネジメント		・			++					+					+	+		+		+	+						+	+			+	+		+
調達マネジメント		・調達計画書の作成								-								+		+							\pm	+			\perp	-		#
統合マネジメント 統合マネジメント		元化力組化 プロジェクト計画の対定 プロジェクト計画がソトロジの活用と実践 プロジェクト計画の実態 プロジェクト計画の実態 プロジェクト計画の実態 ・プロジェクトで表がシャツールの活用 ・深部プロセスの地理 ・選手関性会議業署 組織の手続きの把握																									+							+
統合マネジメント		地沙市 本本城市 日本																										_						_

2/3

c经济企業省

ソフトヴェアデベロップメント		研修コース群	T 基本 1	I T 基 本 2		システム開発基礎		リー ダシップ基礎コミュニケー ション基礎	ネゴシエー ション基礎	開発技術の基礎	礎ジェクトマネジ	ソフトウエア開発プロセ		要素技術基礎		ビジネス戦略・製品企画	製品アー キテクチャ	品質例証と管理	E LIE		級級	メントのリー ダシップソフトウェアデベロップ	ション メントのコミュニケー メフトウェアデベロップ	ソフトウェアデベロップ	要力	動	コミュニティ活動	要素技術		ダス	・コグストリア	業務パッケー ジ基礎	要素技術上級	
職種共通スキル項目	専門分野園有スキル項目	研修コース名	T入門 パーソナルスキル入門	- Tエンジニアの基礎	基礎 データベー スの基礎	ネットワークの基礎	ティ	リーダシップ基礎コミュニケーション基礎	ネゴシエー ション基礎	説の標準/業界標準の概	基礎・エクトマネジを開発プ	最開	グロー バリゼーション	アクセシビリティ	セキュリティの要素技術	ソフトウェアビジネス計	ケーススタディ 野品アーキテクチャの	スト計画ノ	題分析演習	パフォーマンス計画/管	7 間中心設計	メントのリー ダシップソフトウェアデベロップ	ション ソフトウェアデベロップ	ソフトウェアデベロップ	新技		ユニティ活動	基本ソフトの要素技術ワークショップ	ルソフトの	礎ン	動ス ウークリー	業務パッケー ジ基礎級 基本ソフトの要素技術上	上級ミドルソフトの要素技術業務パッケーシ集后別	リテ
品質マネジメント		品質保証 ・品質計画 ・品質予測 ・公単化と技術の活用と実践 品質コントロール																																
品質マネジメント		監査 コントロールチャートの活用と実践 バレート図の活用と実践 統計サンプリングの実施 フローチャートの活用と実践 傾向分析																																
品質マネジメント		高量コントロール・ 生監査 ・コントロールチャートの活用と実践 ・バルー風の活用と実践 ・統計サンプリングの実施 ・カコーチャートの活用と実践 ・傾向分析																																
品質マネジメント		品質計画 ・ペネフィットコスト分析 ・ペンデマーキングの実施 ・フローチャートの活用と実践 ・品質に関するコスト管理																																
品質マネジメント		品質計画 ・ペネフィットコスト分析 ・ペンチマーキングの実施 ・フローチャートの活用と実践 ・品質に関するコスト管理																																
品質マネジメント		品質検証 ・コントロールチャートの活用と実践 ・パレート図の活用と実践 ・統計サンプリングの実施 ・傾向分析																																
品質マネジメント		品質保証 ・品質計画 ・品質予測 ・品質整査 ・ツールと技術の活用と実践																																
分析·要求定義		アクセシビリティ(ソフトウェアデベロップメント) ・各種システムのアクセシビリティ機能 ・各国毎のガイドラインおよび規制																																
分析·要求定義		プローバリゼーション・ ・地域または国の同連注接や規定規格への対応 ・マルテ音語対応 ・標準やアーキテクチャ(Unicode, POSIX定費の国際化モデ ル、Character Data Representation Architectureなど)・ 国際化に画部文化に依存とは計画化された設計と実践・ ・地域化信語や文化に依存ない計画化された設計と実践)																																
分析·要求定義		ソフトウェア製品戦略の策定 ・顧客セグンント分析 ・要求分析 ・SWOT分析 ・ソフトウェア製品戦略の策定 ・自社の企業戦略の理解																																
分析·要求定義		ビジネス課題管理 ・課題の発見 ・解決策の検討																																
分析·要求定義		- 問題解決 関連法規に関する知識 - 関連法規の理解と遵守 企画、計画の策定				\Box			\vdash						+										\vdash	+						+	一	+
分析·要求定義		・顧客要求仕様の理解 ・ソフトウェア製品企画の策定 ・ソフトウェア製品企画の提案 ・ソフトウェア製品の開発計画の策定 ・ソフトウェア製品の投資。 接益モデルの理解																																
分析·要求定義		業界、技術動向 ・国際標準 ・先端技術 ・注目技術 市場動向及び他社動向の把握																															Ц	┸
分析·要求定義		・情報の収集 ・情報の分析 ・市場動向及び他社動向の把握																																
分析·要求定義 分析·要求定義		人間中心設計 知的財産権 基本ソフトに関する深い知識																									l					#	Ħ	≢
	ハードウェア適合設計	・理論的裏づけ(OSのモデル化されたアーキテクチャ) ・内部構成(代表的な個々のOSのアーキテクチャ) ・最新技術、先端技術 担当等を担合・アソフトに関する第2140様																															$\perp \downarrow$	1
	ブラットフォーム非依存設計	・理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ) ・内部構成(代表的な個々の製品のアーキテクチャ) ・最新技術、先端技術																																
	業務適用設計	データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング設計・最適データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング選 データベース、ミドルウェア、分散コンピューティング機能、制 刻事項の理解																																
	業務適用設計	約事項の理解・データペース、ドルウェア、分散コンピューティングを利用し 担当の用リフトに関する深い知識 ・理論的裏づけ(当該分野のモデル化されたアーキテクチャ) ・内部構成代表的な個々の製品のアーキテクチャ) ・最新技術、先端技術																																

3/3

C超済産業省